

まちづくり懇談会議事録

日 時：令和 3 年 11 月 11 日（金）16：00～17：30

場 所：御園公民館

出席者：17 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配付資料確認および日程説明

3. 懇談

（1）第 7 次総合計画の策定について（別紙 1・2 参照）

（2）自由懇談

4. その他（情報提供）

（1）国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（別紙 3 参照）

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：栗山駅南交流拠点施設ですが、我々はほとんど農家の人間なんですけれども、例えば農産物の直売所などを置いてもらいたいという、要望や意見を聞いてもらうことは可能ですか。

町長：他の地域の懇談会でも色々と意見が出ていまして、代表的な活用方を説明させていただきましたが、その他にもこれだけの施設ですので、直売所などさまざまな活用方法を検討したい。これから町民の皆さんの意見を聞きながら、なるべくみんなで使えるような施設にしていきたいと思っています。

町民：コミュニティメディアブースに関して、ラジオ局を作ると書いてありますが、強制的に町民に聞かせる手法というのは考えているんですか？

町長：ラジオ局は情報発信基地として整備するんですけれど、町民の全世帯にラジオを配付する計画になっています。災害時には基地局から発信することによって、スイッチがオンになっていなくても、自動起動するラジオです。緊急時にはそういう放送をかけます。今までは災害が栗山で起きていても、どこがどういうふうになっているのかが、住民の皆さんにお知らせするのが難しい状況だったんです。そのような中で、第一次的には、基地局と皆さんに配布するラジオをもって、災害の情報などをしっかりお知らせしていきたいです。平時の活用については、町民のコミュニティの醸成に使いたいということで、例えば、色々な小学校の行事について、子どもたちが来て、町民の皆さんに発信していく。一つの例ではありますが、町民みんながそのラジオ局を使って、色々な情報を発信するというのが含まれます。パーソナリティーを地域おこし協力隊の中から、北広島でパーソナリ

ティーをやっている方に決定しました。1 日中ずっと何かやっているわけではありませんが、時間を切って、色々な情報発信、音楽も流していけるかなと考えています。この施設の中に整備することになった目的ときっかけについては、栗山町には今情報伝達手段がないんです。防災無線ありません。そういった中で、色々な災害が起きて、異常気象も含めいつどこで起こるか分からないと、どういう情報伝達手段が栗山で 1 番いいのかという議論を長年やってきました。その中で 1 番効果的で、そしてコストがかからないということで FM 局を選んで、それからこの基地局と中継局を整備して、そして皆さんに配るラジオを入れたとして、費用は 1 億 5000 万円ぐらいです。防災無線になるともっとお金がかかりますし、更新費用が約 5 年ごとに出てくる。比較計算していきますと、このコミュニティ FM を使った情報発信が 1 番いいだろうと判断させていただきました。

町民：防災無線なら強制的に流すこともできるかなと思ったのですが。今はラジオ離れじゃないけれど、多分農家ぐらいしかラジオを聞いていないのに、ラジオを持っていないところでどうするんだろうと思っていました。配っていただいて強制的に流れてくる災害の情報などがあるというのであれば納得するし、ありがたいと思います。担い手を育成しながら、新たな法人組織を設立するようなことが資料に書いてあるんですが、基本的にここは黒字経営を目指しているんですか。

町長：今、事業計画を作っていますが、最初は少し町からの補助金支援が必要です。そして令和 8 年度、5 年後以降に、今ここに関わっている 10 名ぐらいの協力隊員が独立して法人組織化し、運営していくということを想定しています。8 年度以降は黒字になるように経営していただくというのが今の考え方です。ただ、FM の災害の関係で町が使う部分は、若干、町としても支援をします。基本的に通常の経営については、法人の方でしっかりやっていただくというのが町の考え方です。

町民：官の部分と民の部分を分けるということですね。法人設立以降は独自決算になって、町からの補助などは基本的には入らなくなるという想定ですか。

町長：運営の部分については民の方でやっていただく。それで、FM などの部分については支援します。共同でやっていく部分もあります。

町民：町が運営していくのなら、みんなのものだから赤字前提でやっていくのかと思っていたんですけど、法人を作ってきちんと黒字収支を上げていくというのであれば、納得できる話だなと思うので照会しました。

町長：民間の施設とは、指定管理者という形を取りますので、町からお願いしていくということになります。町の施設ですから、その指定管理の委託先が法人になります。

町民：指定管理は維持管理の部分だけですね。

町長：維持管理の部分は清掃などの部分だけなんですけど、指定管理は施設そのものを民間が主体的に行うということです。そこで農産物の販売所をやったりできる。事業運営まで新しく作る法人が関わっていき、主体的にやっていくという制度です。維持管理だけ民間法人がやるわけではありません。

町民：指定管理料を払うというのは、維持管理の部分に関しては当然町の施設だからお金を払うが、10 人ぐらいいたら維持管理費はそんなにいらぬ。それ以外の部分は、独自で採算を上げていく施設にしたいということですね。

町長：今は 10 人ぐらいいますが、10 人がそのまま法人に残るとは限らないです。

町民：せっかく育てるのなら、町外に出さないようにしてもらいたい。

町長：ちょうど3年間が地域おこし協力隊の期間なので、農業関係の新規就農者もそうですが、協力隊員の10名というのは、専門知識を持った方が全国から入っているんです。そういう方々が新しい風となって、栗山町に新風を吹かせてくれる。そして、商店街の活性化につなげていく、その方々が持つ地域力とその効果が波及するように、我々もしっかり育てていきたいと思います。できるものならぜひ残って、しっかりと関わっていただきたいと思います。

町民：あまりいい話じゃないんですが、町でお金のトラブルがあった話を広報でも書いてあったと思うんですが、対応が終わってこれからきちんとしていくということだと思うんです。1回ではなくて、数年に渡って不祥事が起きたという話を聞いたんです。それであれば、1回目は本人の責任かもしれないけど、それを見逃す体制を作っていた町の方が、より問題は大きいのかなと個人的には思うんです。多分他の自治会からもこういう話はあるだろうし、内部でもきちんとして議論していただいていると思うんですけど、二度と起きないようにしてほしい。退職されたというふうに聞いているんですが、その人の人生も潰すようなことになってしまう。外から人を入れるという話をたくさんしてられますけれど、その人はもしかしたら栗山では働けないかもしれないし、ここに住めなくなるかもしれないから、そういうことが二度と起こらないように、自分たちのやっていることがどうということなのかを1回見つめ直して、これからの行政に当たってほしいです。

町長：まず、この場を借りて、私からこのような不祥事が役場から起きたことについて、皆さんにお詫びを申し上げたいと思います。大変申し訳ありませんでした。今ご指摘にある通り、年間の中で、このような公金の横領が2カ年以上にまたがって起きたということは、日々の歳入、入金の確認を怠っていたということでもあります。さらにその年度を超えたということは、会計決算処理もそのままの状況でされてしまったということです。そういうところまでいくと、本人の行為は許されるものではありませんが、それを見逃してきた我々行政の体制、仕組みは是正をして、深く反省をして、二度と起きないように、これから万全の事務処理の体制で進めていかなければならない、と深く反省をしています。その中で、本人がこの事件の中で退職ということになってしまったわけで、私としても、せっかく若く有望な職員が栗山に入っていたいて、このような結果になったことを責任者として、本当に申し訳ないという気持ちでいっぱいです。その中で今、これからこのようなことが起きないように、しっかりとした内部処理の、どういう手順でやっていくか、どういう風に監視体制をとっていくかについて、チェック機能の整備を進めているところです。早い段階で、町民の皆様にかような形でやっていくとお知らせしていきたいと思っています。もう言い訳はできないと私自身は思っています、二度とこのようなことが起きないように、これからしっかりと対応していきたいと考えています。

町民：最近、蛍を見るとか、ザリガニが取れるとかいう話を聞くようになってきたんです。それで、今ハサンベツだとか栗山公園を中心に、自然を戻そうという運動をされていると思うんですけど、もう少し町全体を見てもらえれば、何かがもういるところも、戻ってきているところも、もしかしたらいくつかあるのかもしれないし、ハサンベツなどが中心でいいので、広域で見てもらえると面白いのかなと思う。

教育長：蛍については、沢がまだ整備中という段階です。来週日曜日に最後の作業に入りますが、そこもまだ手をつけている段階で、やっと蛍が戻ってきている段階ということをまずは知っていただきたいと思いました。町内全体となると、人が動く話になりますので、

手を広げていきたい気持ちはあるんですが、まだハサンベツが整備中ということもあるので、今の段階ではまずその完結に向けて、作業させていただきたいというのが現状です。町内には御大師山がありますし、色々な環境が豊富ですので、一つの事業が終わった段階で、また次の事業という形になると今の段階では思います。

町民：別にどこかを直せとか事業を入れろという話ではない。直していないから、生き物が住んでいるというのもきっとあるだろうから。ただ、例えば南の山中の沢で、どんな生き物が増えているかといった情報はあまり分からない。ヒグマも出るし、微妙な話ですが。ただ、全体的には生き物がいるところがあるので、それを把握すれば、小学生の授業などでも面白いものができるかなという話です。

教育長：そのためには、今いるスタッフの中から調査できるように派遣する必要があります。そうすると、今の作業で手一杯なのです。まだ他に手を伸ばせない状況にあるということをやまずご理解いただきたいという意味でした。

町民：去年の懇談会でも少しお話しさせてもらったかなと思うんですが、ほとんどがお金が出ていくよという話ばかりで、お金を稼ぐ手段というものを考えているのかどうかという確認がしたい。ハサンベツは去年、札幌から来ている人など誰からもお金をとってませんという話をしていた。そんなものですかという話をしたんですが、ゴールデンウィークの栗山公園の駐車場は、ホーマックの駐車場まで入って、警察が出て誘導するぐらい盛況で、すごい数の人が来ているけれども、当然駐車場もお金を取っていない。観光収入は町に少し努力してもらえれば、税収以外の収入が増え、色々な事業ができるようになるし、少しグレードの高いものにできるんじゃないかなと思う。ふるさと納税などで入ってくる金額も、年々増えてきますので、それ以外にも実際に来た人が出してくれるお金をいかに町の財政として、絡めていけるような努力もしていただければ、より良いサービスをしてもらえるんじゃないかなと思います。

町長：栗山町の総合計画は他の町にはないですが、財政計画との整合が取れました。そういう総合計画の作り方をしています。その中で、今ご指摘にあったように、ある程度新たな収入を生み出せば、効果的な投資ができるという一面があります。栗山公園駐車場の収入や、南交流拠点施設の使用料は条例をきちんと作って、サービスの関係で利用料をいただく部分が当然出てくるかと思いますが、今言われたような税収以外の収入の確保についても、私どももこれからしっかり検討して、やっていきたい。確かに栗山公園の駐車場はこの間まで、ホーマックさんにだいぶご迷惑をかけていて、苦情もいただいていた。今年から、栗山天満宮の向かいに広い敷地、日本高圧さんの所有地があるんですが、そこを賃借しまして、臨時的駐車場を開設しているので、多少は土日の駐車場の混雑は解消されたかなと思います。

町民：継立中学校の関係で1つ話題が挙がっていたと思うんですが、今の段階ではどのようなになっているのでしょうか。

まちづくり総括：旧継立中学校の関係ですが、これまで町でも公募をかけていたんですが、中々申し込みがありませんでした。閉校以来、そのままの状態でしたが、実は今年5月、大阪に本社のある企業から問い合わせがあり、これまで色々と協議し、具体的活用に向けて話を進めています。提案内容は、グラウンドの敷地を活用したキャンプ施設の運営、校舎を活用したシェアオフィス、地域の方の交流の場など、多目的の活用ということで、事業提案を正式にいただいています。これから細かい点を色々と調整しなきゃならないの

ですが、当初提案いただいた通り順調にいけば、来年夏頃にはオープンできるということで、最後の協議を進めているところです。

町民：資料の最終ページの写真は、栗山スキー場の跡ですね。今はこの写真のようになっているのですか。公園か何かで、入れるようになっているのですか。何か予定してることはあるのですか。

副町長：このロッジもなくなりました。

町民：何か整備されているのかなと思いました。

副町長：この写真は以前の、スキー場がある時の写真です。

町民：写真を見て公園のようになっているのかなと思いました。スキー場の跡地は、特に今は予定がないのですか。

副町長：第7次総合計画の中で検討して参りたいと考えています。

17：30 閉会